3.5. 分科会Ⅲ

１日目には大学を取り巻く様々な課題を認識し、また他大学で活躍する大学職員の事例から「大学職員として何ができるか」という可能性を認識してもらいました。そこで２日目に実施された分科会Ⅲでは、６名前後のグループに分かれ、以下のターム１～３によって、今までの議論で得た気づきを整理して深め、最終的には参加者個人がそれらの気づきから、明日からの具体的なアクションにつなげるための行動指針として、「Pan 宣言」を設定しました。

・ターム１・・・気づきを整理する
・ターム２・・・気づきを深める
・ターム３・・・気づきから、行動につなげる

ターム１（9：20～12：00　160 分間）

まずアイスブレイクとして「私の仕事術」というテーマで、各参加者が日頃働くうえで何を意識しているのか、またどのように情報や知識をインプット・アウトプットしているのかなど、仕事のコツをグループ内で共有しました。「メールや電話よりも直接コミュニケーションをとる」「ブログを書いて思考整理している」など、皆さん日頃から意識している仕事術を惜しげもなく発表していました。

アイスブレイクを行った後、ターム１では以下４つのワークを行いました。

■ワーク１「大学を取り巻く課題と職員のアプローチ」　(9:40～10:20)

前日に行われた分科会Ⅰでは、様々な視点から見た大学の課題について、短時間ながらも数多く挙げてもらいましたが、ここでは、その中でも特に大事だと思った課題をいくつかグループ内で挙げました。大学の抱える課題は数多くありますが、それらを一度見渡した上で、自分はその中のどれを大事だと思うかを考える作業です。「運営費交付金の削減」「少子化」「グローバル化への対応」「職員の意識改革」といった、参加者の職種に関わらず大学全体に関わるものについては、多くのグループで課題として挙げられていたのが印象的でした。

課題を挙げてもらった後には、そうした課題に対して我々職員はどうアプローチできるのかを具体的に考えてもらい、「自分の大学を知ること」「職員間の繋がり強化」などが挙げられました。

■ワーク２「課題解決のために求められる人材」　(10:20～10:50)

ここでは、ワーク１で整理した課題・アプローチに対して、職員一人ひとりに求められる能力・スキル等について考えてもらいました。「コミュニケーション力」「語学力」といった能力に加え、「民間的発想思考」「もてなす心（ホスピタリティ）」といった普段聞きなれない能力も数多く挙げられました。

■ワーク３「大学職員の可能性」　(10:50～11:20)

分科会Ⅱで他大学職員の事例報告がありましたが、そこから得た気づきも含め、大学職員として何ができるかを考えてもらいました。「可能性」という言葉をどう解釈していいか分からず、戸惑った参加者もいたようですが、このワークの狙いとしては、以前と比べ大学職員の担う役割が重視される中で、従来の大学職員の役割イメージを打破し、その活動範囲を広げてほしいという狙いがありました。

■ワーク４「国立大学法人等職員募集要項」作成　(11:20～12:00)

ここでは今までの議論を「募集要項」という形で模造紙にまとめました。ターム１の目的である「議論を整理する」ための最終ワークです。写真のとおり、模造紙には大学のゆるキャラなどのイラストが描きこまれるなど、様々に工夫を凝らしたものがありました。

ターム２（12：10～12：40　30 分間）　国立大学法人等職員募集プレゼン

このタームでは、ターム１で作成した募集要項（気づきのまとめ）を、他のグループに向けて発表し合い、他のグループの発表を聞くことで気づきを深め、次のタームで行う行動目標の策定に向けての一助としました。職員募集プレゼンということで、相互に採用する側、される側の気持ちになってワークを行うという指定のもと、各グループ発表を行いました。写真のとおり、模造紙にまとめて発表をするグループもあれば、ホワイトボードを利用した発表スタイルもあるなど、様々に工夫を凝らしたプレゼンが行われました。

各グループの発表を聞きながら、良いところを参考にしたり、国立大学職員の魅力や、職員ができること・職員だからこそできることについて、これまでの気づきを深められたことと思います。

ターム３（12：50～13：30　40 分間）　「行動目標」の策定

分科会最後のタームでは、それまでの気づきを行動につなげていくため、行動目標を「Pan 宣言」としてまとめました。２日間の議論をもとに、大学職員の可能性を踏まえつつ、国立大学が抱える課題に対して自分は具体的にどう関わっていくかを参加者それぞれに考え、具体的な行動目標をシートに記入していきました。

参加者アンケートでは「いきなり自分のことに落とし込むのは難しかった」といったコメントがありました。きっと、多くの方が同じように感じたのではないでしょうか。大学が抱える課題は多岐にわたり、また、職員個人では解決できないようなことも多くある中で、それに対して職員として私たち一人ひとりがどのように取り組んでいくかということは、非常に難しい問題です。しかし、そこで立ち止まるのではなく、小さな一歩でも良いので、課題解決のためにどのようなことが必要か、また、その必要なことを身に付けるために、今の自分に何ができるかを考え、自分自身がやりたいと思うこと、これなら実行できるということを、具体的な行動目標としてまとめることで、今後に繋げていきたいということが、実行委員の思いでした。今回のタイトル「Pan can do it!!～自分の仕事が未来を変える」には、その思いが込められていました。

別の参加者からは、「行動目標を立てて、これからの志が明確にもてた」という感想もありました。頭を悩ませながらもまとめられた Pan 宣言には、自分の仕事で未来を変えていこうという思いが感じられます（参加者の Pan 宣言は p. 37～にまとめていますので、ぜひご覧ください）。

3.6. 全体会（クロージング）

２日間にわたる会議もいよいよ最終局面。全体会に集まった参加者には、これまでのワークで全力を出し切って少し疲れた様子も見えましたが、それぞれに得るものがあったことを見て取れるような晴れやかな笑顔が広がっていました。

クロージング全体会では、まず、２日間にわたる会議の総まとめとして、数名による Pan 宣言の発表が行われました。

Pan 宣言は、前述の分科会Ⅲの最終ワークにて「大学が抱える課題について自分自身がどのように関わって行こうと思うか」について具体的な行動の目標をたてたものです。身の回りの業務の効率化、まわりの若手を巻き込んで仕事をするといった業務に直結しやすいものから、向上心を持って仕事をするといった気持ちに焦点を当てたものまで、個々の思いが非常によく表れていた発表でした。

今回ともにコクダイパン会議の場を共有したことへの感謝、また、これから職場に戻って奮闘しようとしている各自へのエールなどを込め、参加者全員による参加者全員のための拍手をもって、第９回国立大学一般職員会議は閉会しました。

4. アンケート結果報告

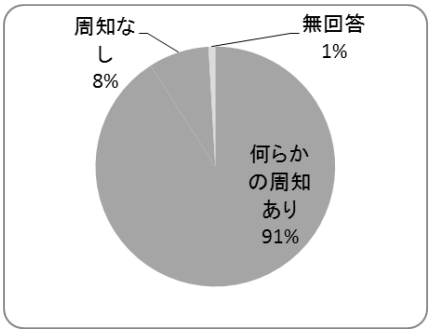
第９回コクダイパン会議終了後、参加者の皆様にアンケートの協力を依頼し、122 名の参加者のうち 110 名（約 90.2%）から回答を得ました。ここではその集計結果を紹介するとともに、過去のアンケート結果を参考にコクダイパン会議を取り巻く状況について考えたいと思います。

過去のアンケートについては、複数回答の有無やアンケート項目に違いがあるため、比較可能な項目についてのみグラフ化し、傾向として参考資料として活用しています。また、アンケート回答数及び参加者数等については各報告書の数値を活用しています。割合などの算出については、各グラフに算出方法を記載しています。
　また、今回の報告書を取りまとめるにあたり、参加者から寄せられたコメント（自由記載部分）については、率直な感想や思いが含まれていると考え、可能な限り掲載する方針としました。そのため、一部カテゴリー分けにおいては、重複して記載している部分があります（該当部分については【再掲】と表示しています）。なお、本項目においては、便宜的に「回答者」を「参加者」と読み替えてコメントしていくこととします。

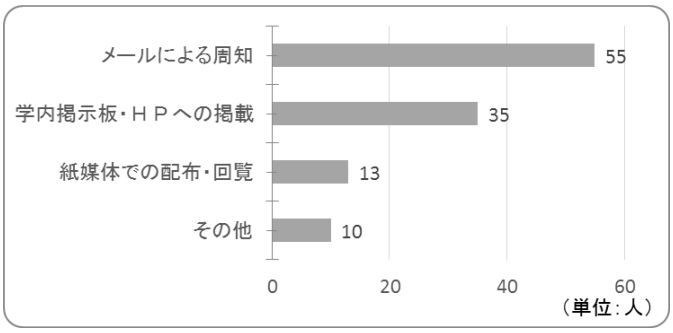
1. 会議に出席するにあたって

1-1：コクダイパン会議開催の周知状況

―周知の有無―



―周知方法（複数回答可）―

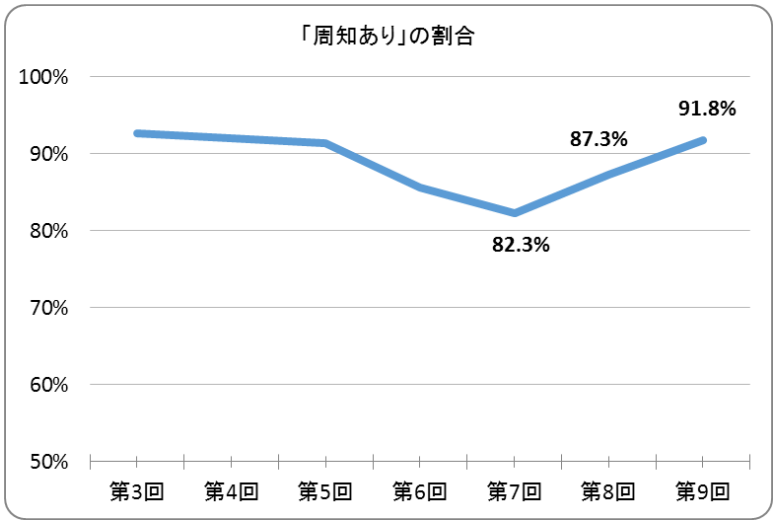


「その他の方法」の回答…
飲み会での宣伝／人事担当課からの指名／研修担当からの照会／上司からの連絡／以前、参加したことがある先輩から話を聞いていたため／過去の参加者によるオファー／先輩からメール／毎年参加している／他研究会での周知

９割以上の大学で何らかの方法で職員に対し、周知が行われているようです。周知方法としては、過半数がメールによる周知、次いで学内掲示板や HP への掲載が多いようです。また、複数の方法で行われている大学もあるようです。

過去のコクダイパン会議と比較しても第７回で一時は周知割合が 85%を下回ることがありましたが、ここ最近では上昇傾向にあることが伺えます。実行委員会からの募集要項等の案内が所属機関を通じて参加者に伝わっているのが確認できます。

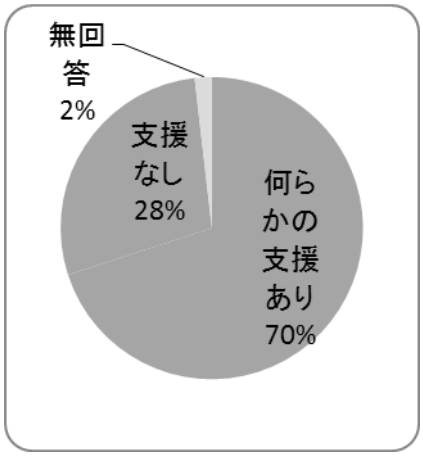
【参考資料】



※「周知あり」の割合は、「1-（周知なし/回答数）」で算出。

１－２．所属機関において、コクダイパン会議参加に対する何らかの支援はありましたか。

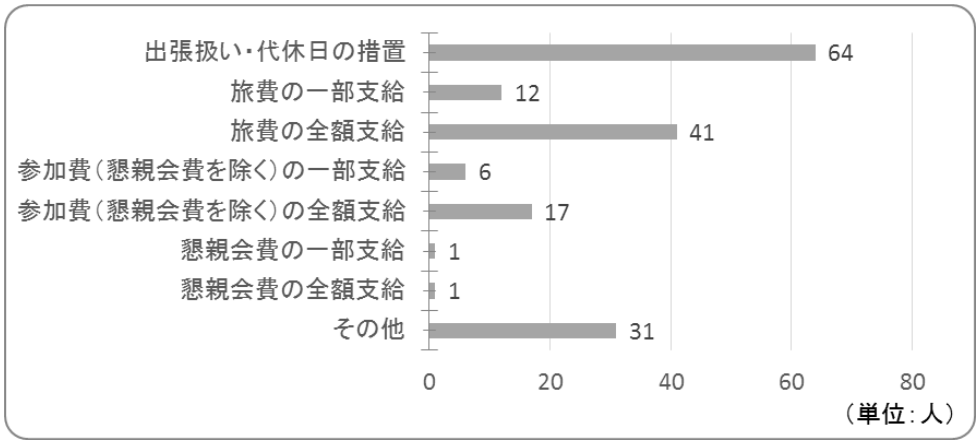
―支援の有無―



アンケートによると、参加者の約３割は特段支援がない状況での参加となっています。一方、約７割の参加者が何らかの支援があったと回答しており、支援の方法としては「出張扱い・代休日」の措置が約６割と最も多く、旅費に関しても、全額支給・一部支給が約半数を占めます。また、一部では参加費も負担している機関もあります。

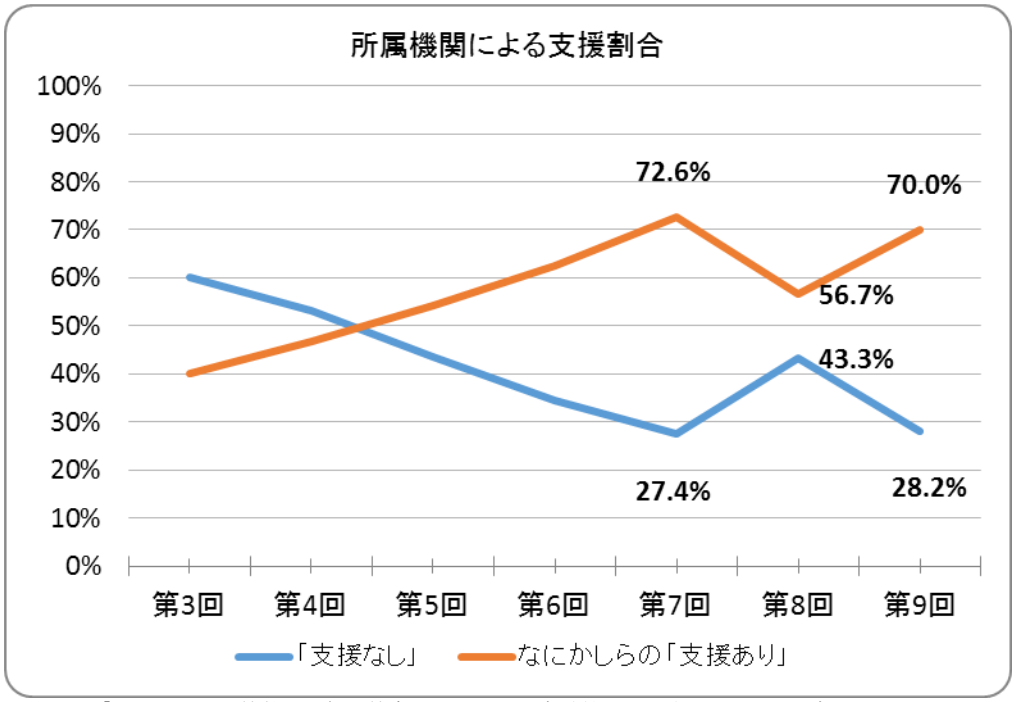
以上のことからも、**所属機関におけるコクダイパン会議への理解が年々浸透しており、支援が継続している**ことが伺え、経済的には参加しやすい環境が整いつつあることが示唆されます。

―支援方法（複数回答可）―



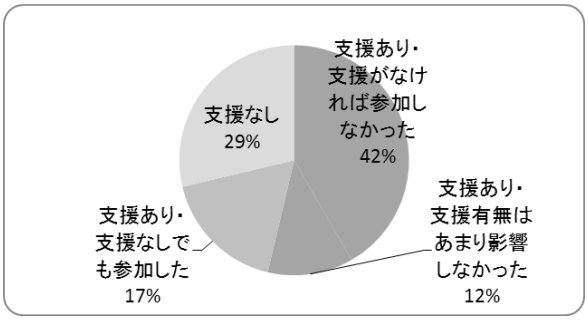
「その他の方法」の回答…会場の提供（一橋大学）

【参考資料】



※分母は「アンケート回答数」、無回答者がいるため、合計値が 100%にならない場合がある。

１－３．支援の参加意向への影響



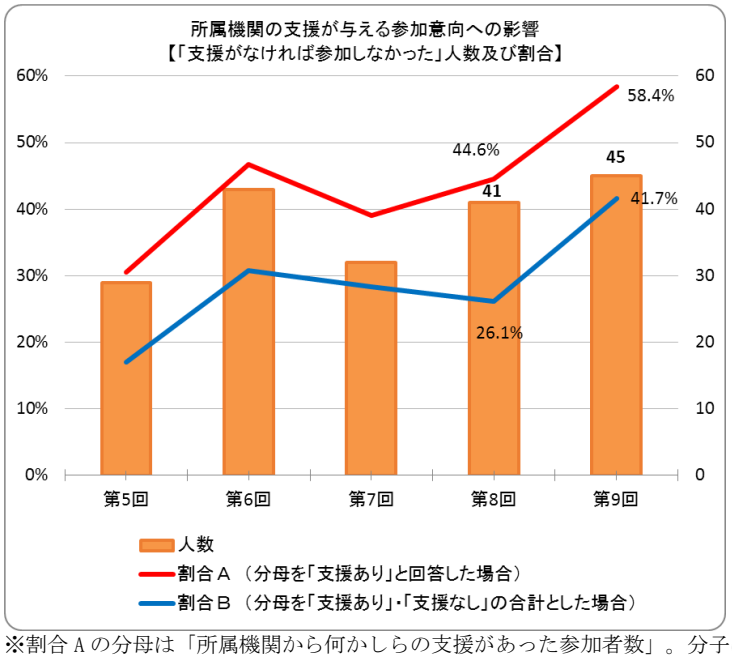
全体のうち 45 名（42%）は参加意向に「影響した（支援がなければ参加しなかった）」と回答しています。また、「あまり影響しなかった」「影響しなかった（支援なしでも参加した）」を合わせると 32 名（30%）となっています。約４割は「影響した（支援がなければ参加しなかった）」とのことですが、**６割の参加者は支援の有無に関わらず参加の意向だったことが伺えます。**しかし、**「支援を受けた参加者」に焦点を絞ると、そのうち６割（58.4%）は「支援がなければ参加しなかった」**と回答しています。

これらの数値を経年で見てみると、「支援がなければ参加しなかった」割合は、第９回において最も大きな割合を占めていることがわかります。回答数全体から見ると、「支援がなければ参加しなかった」という割合は、第５回から第６回にかけて上昇し、その後第８回から第９回にかけて、ごくわずかに低下しているものの、第９回に大きく増加しています。

一定の傾向を見出すにはまだ経年の蓄積は少ないものの、データを取り始めた第５回から比べると、所属機関からの支援を参加の前提とする参加者が過去最大である 45 人に上っており、前年比 24.7%も増加しています。支援があるから参加するということについてはコクダイパン会議が自発的なものであることを鑑みると、今後の会議の在り方について何かしらの示唆を含んだデータかもしれません。

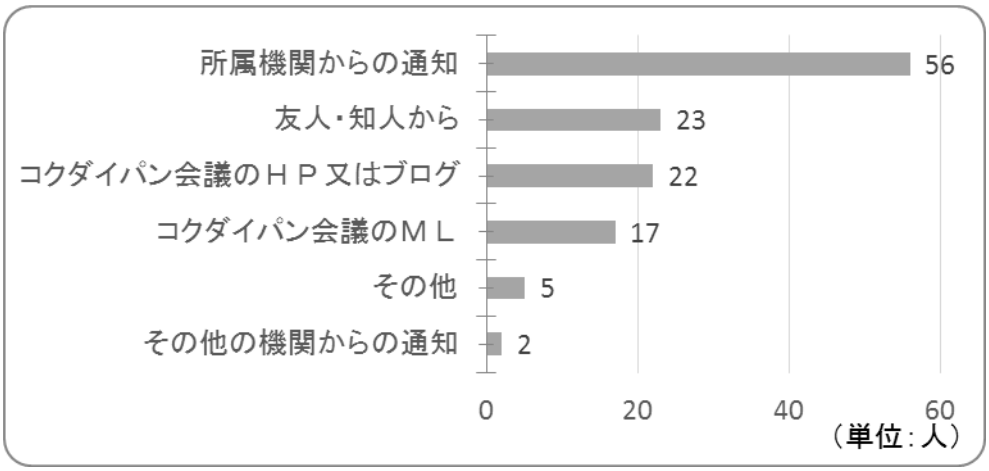
ただ、一方で、支援があることによって参加するきっかけを得られる人が多くなっているとも読み取れることができるかと思います。所属機関の支援により、コクダイパン会議への参加ハードルが低くなっているのであれば、必ずしも課題だけではないと思います。データの見方によっては様々な評価を行うことができますが、今後の経過や参加者の意識によっては、コクダイパン会議の位置づけにも変化が生じるかもしれません。

【参考資料】



※割合 A の分母は「所属機関から何かしらの支援があった参加者数」。分子は「強く影響した」と回答した数である。
※割合 B の分母は、「アンケート回答者」の人数ではなく、本設問の回答数及び直前の設問での「支援なし」の回答数の合計としている。（※一部の回のアンケート結果では、回答数を合計すると回答者数を超えてしまうため（第６回は１、第８回は７の超過）。精度に若干の問題があるものの、数値が小さいため誤差の範囲と考えた。おそらく、直前の設問で、所属機関からの支援有無について「支援なし」と回答しているのに、本設問に回答しているのではないかと推定される。）

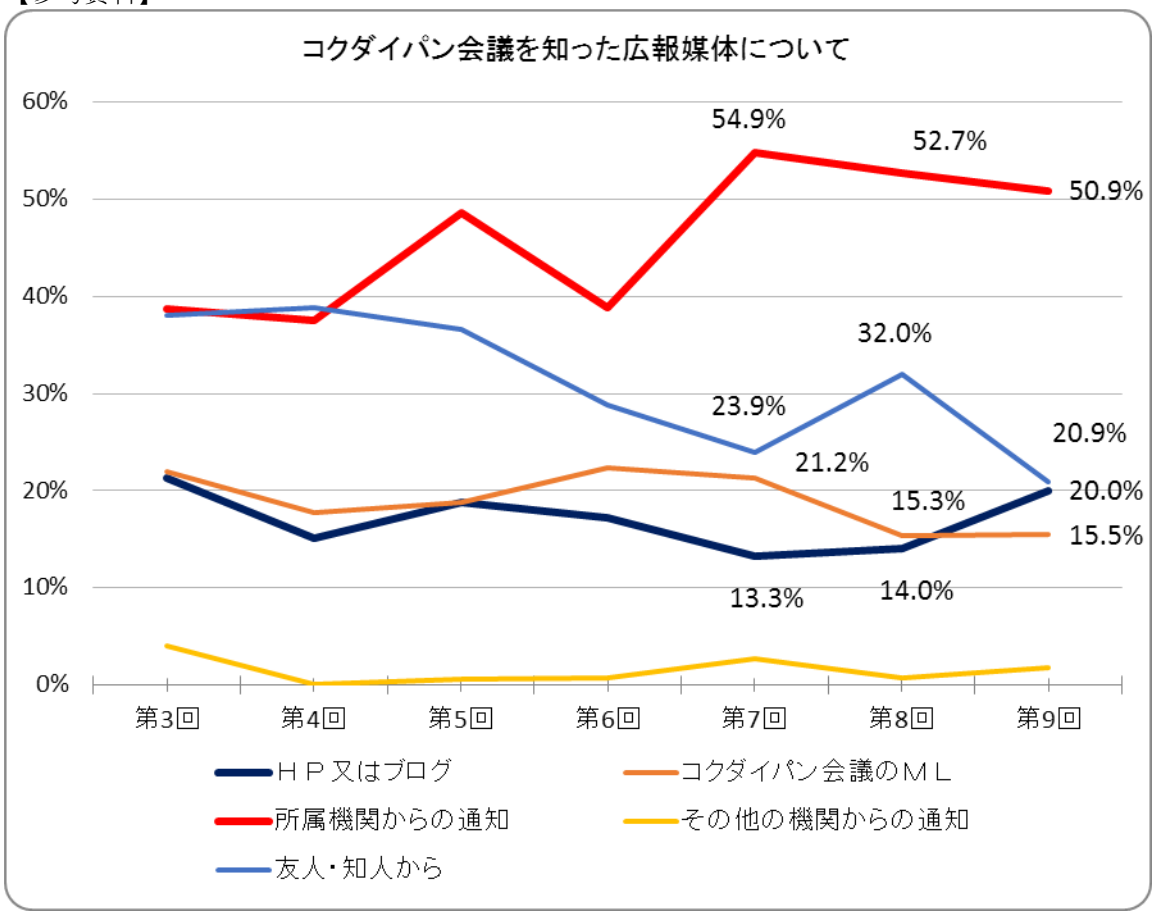
１－４．第９回コクダイパン会議の情報源



最も多いのは「所属機関からの通知」ですが、その次は「友人・知人から」となっており、人とのつながりが大事な情報源となっていることが分かります。

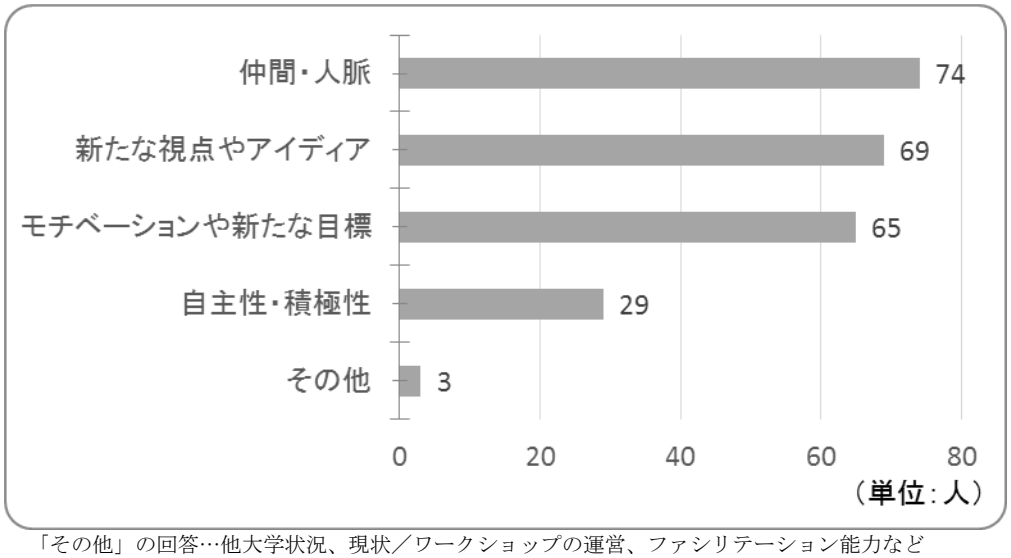
しかし、最近の傾向を見ますと、「友人・知人から」を挙げる方は減少傾向であり、**「コクダイパン会議のＨＰまたはブログ」といった公式広報媒体から情報を得る方が増えています**。これはコクダイパン会議の継続により、広く一般に認識されてきたことも影響していると考えられます。

【参考資料】



※分母は「アンケート回答数」、分子は各項目の回答数、複数回答のため、合計値は 100%にはならない。

１－５．会議に参加することによって得たい・身に付けたいもの（複数回答可）

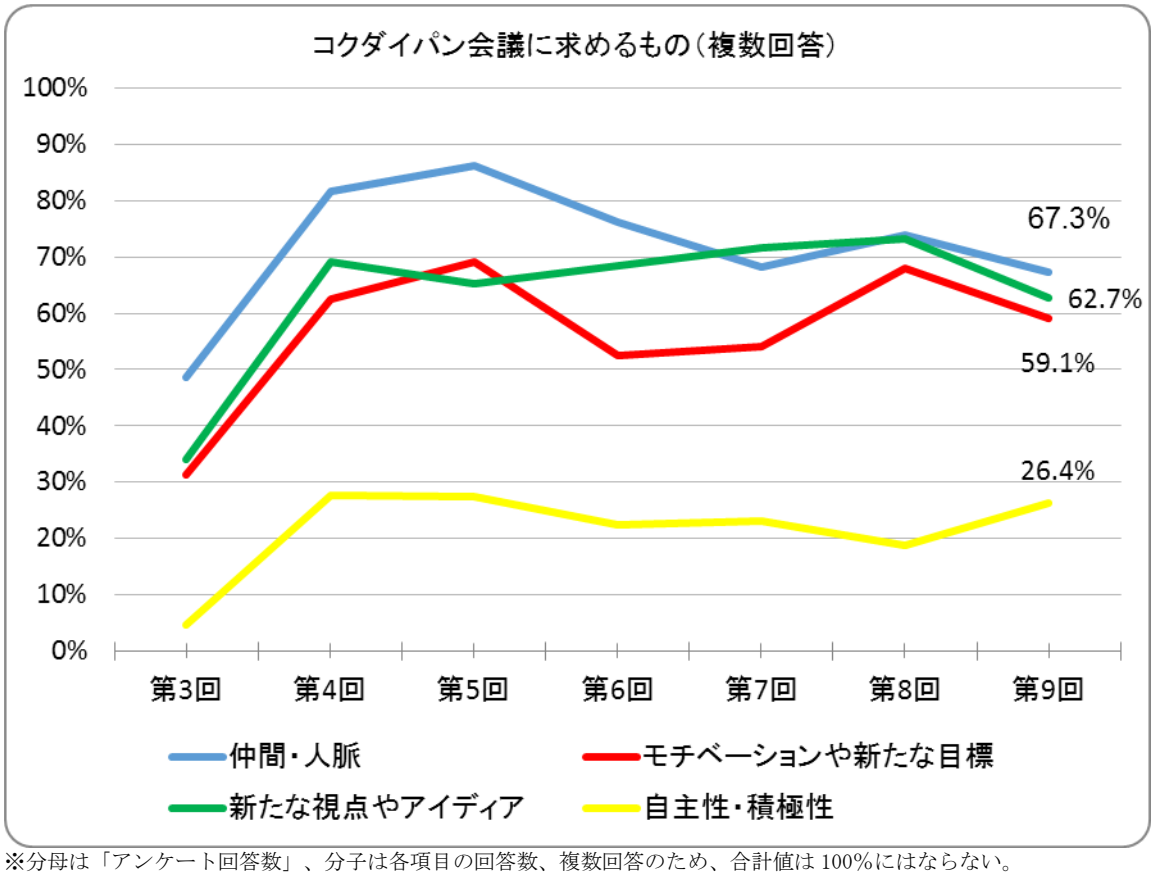


「その他」の回答…他大学状況、現状／ワークショップの運営、ファシリテーション能力など

第９回コクダイパン会議への参加者は、「仲間・人脈」が 74 名（67%）、「新たな視点やアイディア」が 69 名（63%）、「モチベーションや新たな目標」が 65 名（60%）を目的と回答する参加者が多いですが、第８回と比較すると、「自主性・積極性」を挙げている割合が若干増加しています。

過去のアンケートと比較すると、多くの参加者が人脈形成、「新たな視点やアイディア」や「モチベーションや新たな目標」を求めていることが分かります。今後もこうした皆様の要望を踏まえて企画を考えていきたいと思います。

【参考資料】

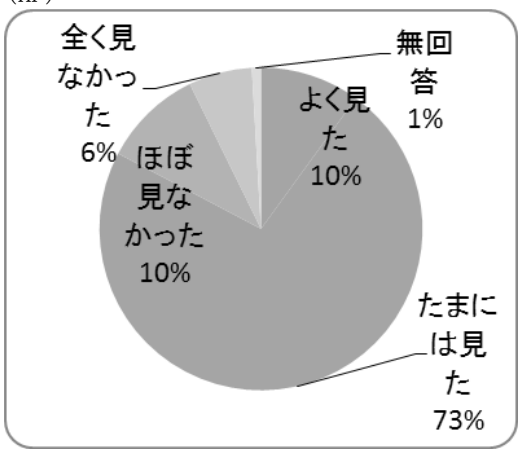


※分母は「アンケート回答数」、分子は各項目の回答数、複数回答のため、合計値は 100%にはならない。

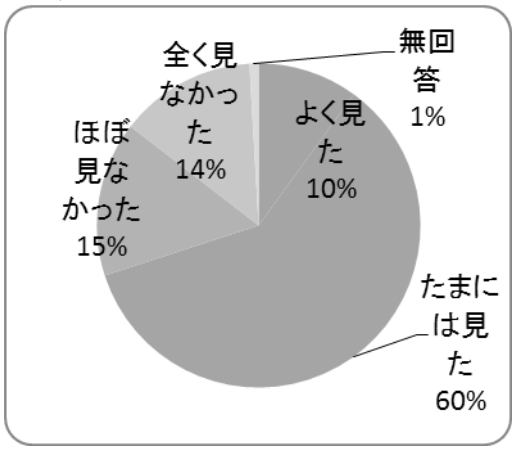
２．会議について

２－１．広報（HP、ブログ、Facebook）について

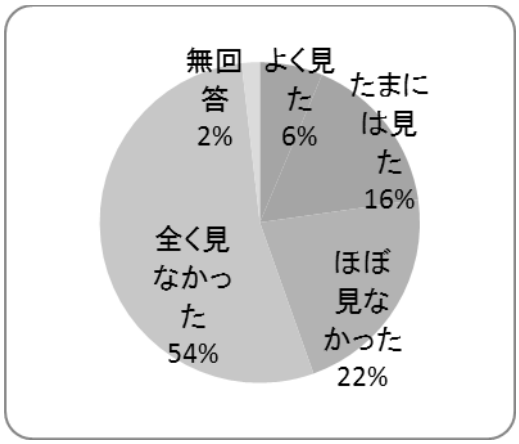
（HP）



（ブログ）



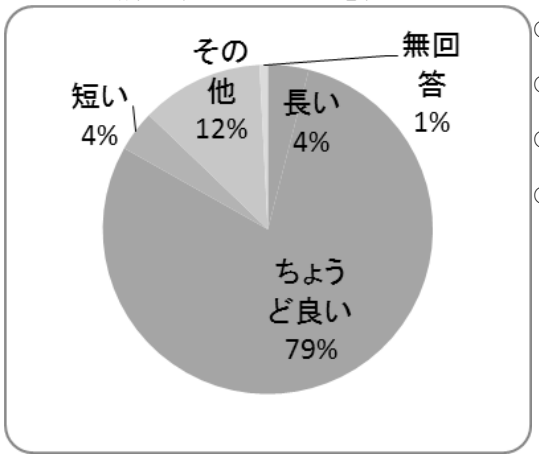
（Facebook）



９割以上の参加者が事前に少なくとも１回は HP を見ており、１割はよく見ていたとのこと。また、ブログについても１割の参加者はよく見ており、たまに見たという回答を合わせると７割の参加者が閲覧していたようです。参加するにあたっての注意事項や、お楽しみ情報を掲載していたので、しっかりとチェックしていただき嬉しい限りです。

一方、Facebook は全く見なかったという回答が過半数を占めていることから、今後の活用や内容など、運用方法を含め検討する必要がありそうです。

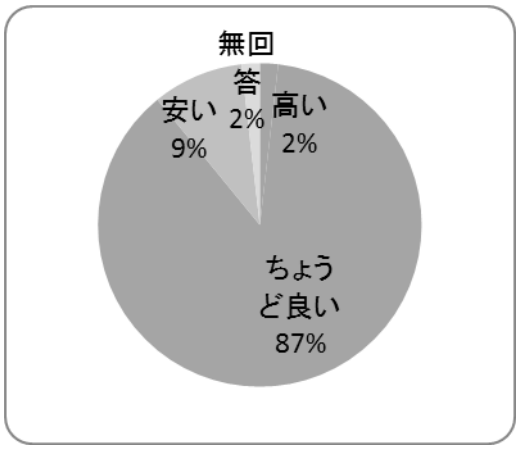
２－２．会議日程についての意見



○３連休で参加しやすい　３件
・３連休の前２日だったので翌日疲れをとれて良い。　など
○内容が過密　４件
・内容が盛りだくさんだったので２日間は短い気がします。　など
○土日開催が良い　２件
・土日開催は実行委員は大変かと思いますが、良かったと思います。　など
○その他
・３連休なので宿泊を抑えるのに苦労しました。
・10 月は忙しいですが、季節的には良かったです。
・文科省の〆切が次々に重なっている時期で厳しかった。
・病院職員としてはレセプト提出の１～10 日の間でなければよいなと思いました。今年は提出後のためちょうどよかったです。
・長期休暇中や業務閑散期の開催が良いと思う。

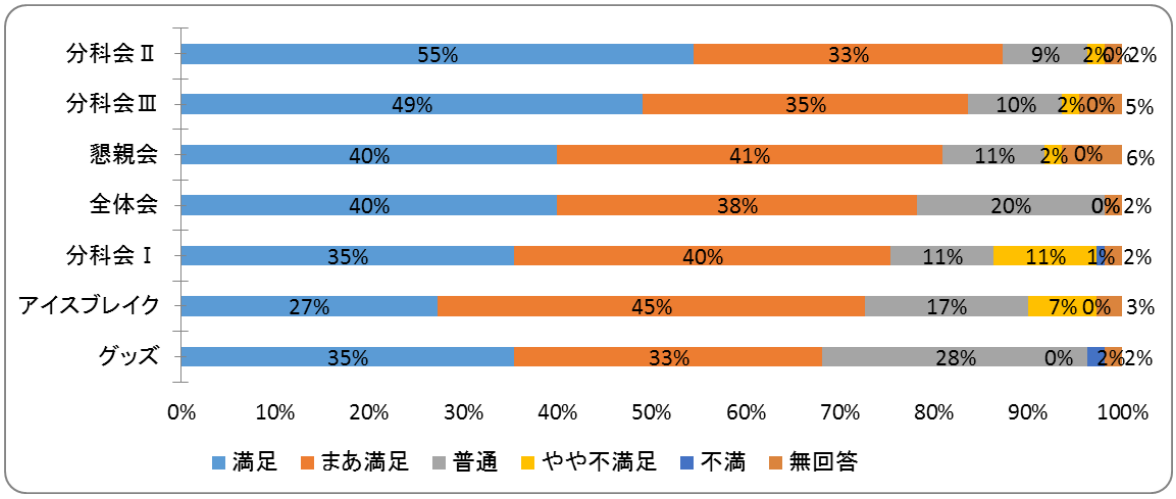
８割の参加者がスケジュールについて「ちょうど良い」と回答しており、全体の長さは適正なようです。また、その他の意見では、三連休なので参加しやすかったというものが４件ありました。一方、会議の中身が過密であるといった意見も４件見られるなど、企画内容とのバランスを含め開催期間については、今後、主催側として注意していく必要がありそうです。

２－３．参加費についての意見



約９割の参加者が参加費について「ちょうど良い」と回答しており、概ねの参加者にとって適正な参加費で開催できていることが伺えます。

２－４．会議の満足度



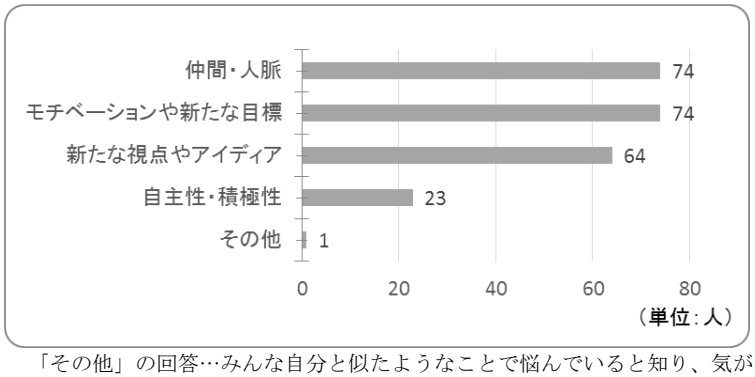
全体会、アイスブレイク、分科会のいずれも「満足」「まあ満足」を合わせると７割以上、グッズはわずかに７割を下回っているものの、会議自体については大方の参加者から満足と評価されていることがわかります。

特に、**最も満足度の高かったのは分科会Ⅱ**で、87%もの参加者が満足と回答しています。他大学での取組みや、活躍している職員の話を直に聞けることが、コクダイパン会議の一番の醍醐味であるということを窺わせます。また参加者が求める「新たな視点やアイディア」を得られる機会でもあることから、ニーズに応えた企画であったと判断できます。

その次に高かったのは分科会Ⅲで、84%の参加者が満足と回答しています。本会議で狙っていたものの１つとして、参加するだけでなく参加者各自の具体的な行動に繋げるというものがありました。分科会Ⅲで考えを整理し、自分の目標を立てていくプロセスで、何か得るものがあったのだとしたら、実行委員会としては何より嬉しく思います。また、お楽しみのパンを食べられたのも分科会Ⅲが高評価だった理由の１つかもしれません。

そして、注目すべきは懇親会の満足度も 81%と高いということでしょう。参加者の多くは、コクダイパン会議を通じて「仲間・人脈」を得ることを希望していることから、参加者同士の交流機会である「懇親会」は大いに役立っているとともに、各大学自慢のグッズのコーナーや、「コクダイパン所属機関ＰＲ大賞 2015」などのイベントなど、大いに楽しんでいただけたようです。

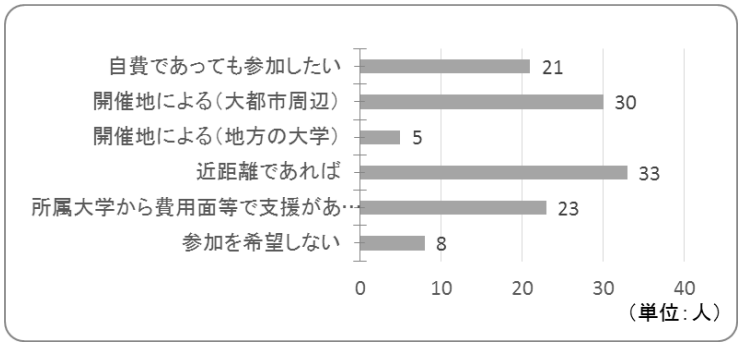
２－５．会議に参加することによって得られた・身に着けられたもの（複数回答可）



「その他」の回答…みんな自分と似たようなことで悩んでいると知り、気が楽になった。

１－５．の「参加して得たいもの」と比べると、「仲間・人脈」と回答した人は同数、「モチベーションや新たな目標」と回答した人はやや増えています。一方、「新たな視点やアイディア」「自主性・積極性」は、やや減っています。**仲間や人脈を得ること、モチベーションが高まり、新たな目標を得られたという点は評価されているようですが、新たなアイディアや自主性・積極性に関しては、期待ほど得られなかったと考えた参加者がいる**ことが伺えます。次年度以降の企画内容については、参加者のニーズを限りある時間の中に、どう反映していくのかなどを検討していく必要がありそうです。

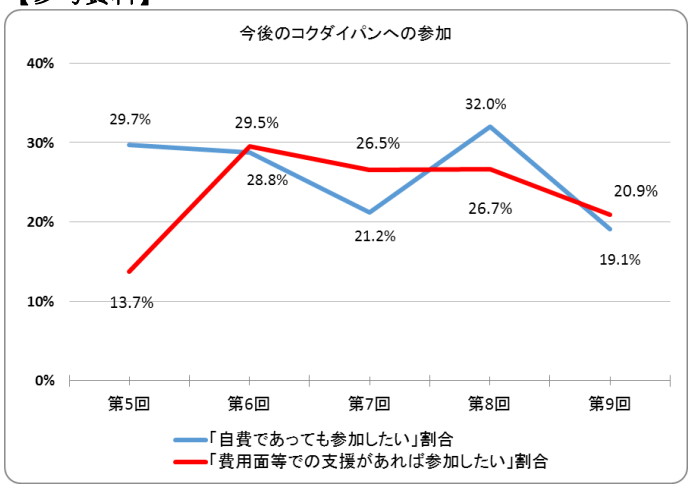
２－６．今後の参加意向



「自費であっても参加したい」との感想は 21 名（約 19%）から挙げられました。「開催地による」という回答が最も多く、「開催地による（大都市周辺）」「開催地による（地方の大学）」「近距離であれば」を合わせると 68 名に上っています。また、「所属大学から費用面等での支援があれば参加したい」という参加者は 23 名（約 21%）となっています。

「自費であっても参加したい」割合は昨年度の 32%から 19.1%と大きく減少しました。また、**たとえ「所属大学から費用面等での支援」があっても、それだけでは参加を必ずしも促すものではなく、「開催地」などのその他の要因があることが伺えます**。

【参考資料】



※分母は「アンケート回答数」、分子は各項目の回答数、複数回答のため、合計値は 100%にはならない。第７回の「費用面等で支援が…」には、費用の支援が含まれている項目の合計値を記載。

３．今後について

３－１．今回の会議を受けて、職場に戻ってからやってみたいこと

○自らのスキルアップ（勉強・情報収集等）をしたい　（18 件）

自己の成長のための学習／好奇心、時間外でも自分の業務に関することを勉強していきたいと思います。／自大学の勉強／教務について勉強したい。／専門知識を深める、思いやりを身につける／本部の会議資料が公開されているので、しっかり目を通したいと思います。／自身の能力向上+学内のつながりを作っていきたい／自習勉強の強化、他職員をまきこんだ勉強会／自分の業務以外の勉強を深めたいと感じました。／勉強、他部署や大学全体のことに目を向けてみる。／大学の歴史や研究内容等について知ること／自分の大学について勉強する／自大学のことをもっとよく知る事、自大学愛を深める／大学のこと、課題のこと、自分の仕事のことなど、様々な事を勉強したいです。／能力開発する。／本学のホームページを毎日チェックする。／情報収集と分析／自分自身のキャリア UP

○学内でコクダイパンのフィードバック・紹介をしたい　（10 件）

こんなに面白かったです！ということを照れずに言いたい。／自分なりに参加者から見聞きしたことをフィードバックする。／自大学からの参加者を増やしたいので、有志の勉強会で報告したいです。／このような勉強会（場）に興味がある職員がいれば、是非紹介にあげたい。／報告会があるのですが、毎年報告会の参加者が、コクダイパン参加者と人事関係者のみなので、今回はオーディエンスを集めるよう提案してみます！／周りの人に感動を伝える。／若手職員への通知／本会議の内容を若手職員に伝えて参加をすすめます。／上司への報告。参加できなかった職員への報告。／おみやげの配付・PR

○勉強会・研修をやりたい　（10 件）

これから活躍する後輩（+α：契約職員さん）のモチベーションアップのための研修会実施／学内で勉強会を開きたい／課内、学内での係員レベルでの勉強会／自習勉強の強化、他職員をまきこんだ勉強会【再掲】／SD 研修／国際関係部署との勉強会／学内だけでなく、学外での勉強会・情報交換会が必要だと感じました。／学内研修会の企画／分科会のようなワークスタディーをやってみたい／SD 関係

○人的交流を広げたい　（７件）

とにかく人当りをよくする、コミュニケーションを取る。／とにかく学生・教員・職員・他大職員と交流していき可能性を探していきたいです。／研修に一緒に来てくれそうな仲間をまず探そうと思います。／学内における仲間づくり、まずはメーリングリスト等から始めたい。／学内だけでなく、学外での勉強会・情報交換会が必要だと感じました。【再掲】／自身の能力向上+学内のつながりを作っていきたい【再掲】／学内メーリングリストを作りたいです。／職員を広く巻き込めるイベント

○その他　（13 件）

悪い空気を読まないこと。／大学職員の魅力を感じる。／スケジュール管理（いろいろアイデアをいただきました）。／大学を好きになること。自分から動くことです。／学生との協働イベント開催／分科会で聞いたお話を実践してみたいです。／Pan 宣言を努力したい／PAN 宣言の実行！！／効率化をし、自分のやりたい活動をする時間をつくること。／業務効率化への取り組み。／業務改善、効率化／情報の発信など／情報発信

「自らのスキルアップをしたい」と考えた参加者が 18 名と今後に関する自由記載の中で最も多い回答となっています。また、学内での報告会でコクダイパンのことを報告したい、或いは若手の職員に周知したい等とコクダイパン会議を所属機関の同僚に広めたいと考えた方も多いようです。その他には、「勉強会や研修を企画してみたい」、「人的ネットワークを広げたい」といった趣旨の回答も多く見られ、コクダイパン会議を契機に主体的な活動を計画してみたいと思った参加者もいるようです。様々なコメントが寄せられている中で、今回のワークを通じて設定した「Pan 宣言の実行」という回答もあり、実行委員会一同、参加者の所属機関に戻ってからの主体的な活動の実施を期待しています。

２日間という短時間の会議でしたが、多くの参加者に今後の具体的な動きにつなげたいという思いを持っていただけたことは、実行委員会として大変嬉しく思います。

３－２．今後のコクダイパン会議で実施してほしい企画や取り上げてほしいテーマ

○実施してほしい企画

具体的な勉強の場の設定／共通の課題（人材育成・国際化…）について、面白い具体例があればそれについて聞いてみたい／モチベーションの向上、コミュニケーション能力の向上／PR シートのところで、「素敵な先輩」

○取り上げてほしいテーマ

周りを巻き込む力！学生のための運営力！　／国立大学としての強み（公立大・私立大と比べて）／病院のこともテーマに入れていただけると嬉しいです。／他大学の悩み・対策／大学はいかに稼ぐか？／事務と技術職員に関すること／他大学との連携　企業・自治体等との連携

○その他提案

全体での議論、分科会は本当に分科会にしてテーマを分けてしまう。／（可能であれば）文科省の若手の方も参加して欲しい／東が多い気がするので、西の方でもどうか？

３－３．次回の開催地希望

エリア	人数	地域	内訳	具体的記載
東日本	10	北海道	3	北海道（2）、北海道大学
		東北	0	
		関東・甲信越	3	山梨、関東、千葉大学
		東京	2	東京（2）
		東海・北陸	2	名古屋（2）
西日本	22	近畿	14	大阪（4）、大阪大学（4）、三重、京都、近畿（2）、関西（2）
		中国・四国	0	
		九州	4	九州エリア、長崎大学（2）、九州大学
		沖縄	1	沖縄
		その他	3	西日本（3）
その他			9	交通の便が良い・空港の近く（4）

※具体的な大学名についても反映させています。

ここ最近は、関東地区・東北地区の開催が続いたことから、近畿エリア・九州エリアでの開催を希望する声が寄せられています。また、交通アクセスの良いところなども挙げられています。

４．その他のコメント

○委員へのお礼・労い　（38 件）

・課題の内容、グループ分け、本当によく構成されていると思いました。いい機会を提供下さり、ありがとうございました。
・実行委員のみなさま、お疲れさまでした。次回ありましたらまたよろしくお願い致します。
・第９回まで続いていることが、本当にすごいと思います。企画・運営ありがとうございました。大変だったと思いますが、会議があるおかげで、得られたものもあり、感謝しています。
・長い間この２日間のために準備されてきたことと思います。本当にお疲れ様でした。みなさんとお互いに考えを話し合って多くの気づきを得られました。ありがとうございました。
・おつかれさまでした。
・実行委員のみなさん準備などお疲れ様でした。とても有意義で濃い時間を過ごすことができました。内容が難しいかなーと思っていましたが、やってみると楽しかったです。
・同じ国立大の職員で課題や共通点を認識する事や共有する事が出来て、良かったと思います。またモチベーションの高い参加者が多いので、今後の業務での意識改革ができたのではないかと思います。このような機会を作っていただき、ありがとうございました。
・おつかれさまでした。２日間有意義に過ごせました。ありがとうございます。
・以前参加させていただいた先輩からのすすめで今回参加させていただきました。会のスムーズな運営状況を見て、実行委員の方の努力が伝わってきました。全国の方がこれだけ集まり語り合う場というのは、なかなかない機会だと思います。運営に興味があると話したところ、委員の方々に是非やろうとのお誘いを受けたので、来年の業務状況を見て前向きに検討したいです。（○○さん、○○さんを引きずり込みたい…）今回は本当にありがとうございました。
・たくさんの人と話をすることができ、勉強になりました。ありがとうございました。
・実行委員の皆様におかれては、大変お疲れ様でした。色々と表に見えてこない苦労も多くあったと思いますが、しっかりとした運営体制であったと感じています。ありがとうございました。
・今回は参加させていただき、ありがとうございました。
・参加費の支払いが遅れ、ご迷惑をおかけしてすみませんでした。初参加で不安でしたが、色々なことを学べて、参加してよかったと思っています・ありがとうございました。
・非常に楽しい２日間となりました。ありがとうございました。
・２日間お疲れ様でした。これだけの会議を企画するのは大変な苦労だったと思います。企画員さんや他の方のモチベーションを分けてもらえました。
・充実した２日間になりました。ありがとうございました。
・振り返って整理するほどに良い気づきがある予感がしています。ご尽力いただき、ありがとうございました。
・多くのつながりを作り、考え方を広げていくとても良い会でした。ありがとうございました。
・大変有意義な時間となりました。企画・運営の程ありがとうございました。
・新しい視点を知ることができ視野が広がりました。ありがとうございました。パンおいしかったです。
・色々な人の話を聞くことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。
・視野は確実に広がったし、モチベーションもあがりました。ありがとうございました。
・２日間ありがとうございました。
・お疲れ様でした。とても良い経験となりました。
・大変ためになりました。ありがとうございました。
・お忙しいところ、素敵な会をありがとうございました。輝くみなさん、悩む戦うみなさんとお会いし、私もこれからまだまだがんばらねば、と思うことができました。
・本当にお疲れ様でした。無事完備して下さってありがとうございます。
・準備運営等々ありがとうございました。
・ご準備、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。
・実行委員、サポーターの皆さんお疲れさまでした。運営に携わったことがあるものとして、今後もつながっていければと思います。
・実行委員の皆様、運営お疲れさまでした。良い会議に参加させていただきました。会議を通じて得たことを、本学に戻って日々の業務の中で活かしていきたいと思います。
・課題や職員としてできることをじっくり考える機会があまりなかったので、いい機会になりました。今後の業務に活かせそうな意見をたくさん聞くことができたので、目標が実現できるようがんばりたいと思いました。ありがとうございました。
・大変良かったです。やる気のある職員の熱気を感じ、足を運んでよかったと思います。
・ありがとうございました
・初参加でしたが、普段あまり考えられないこと、考えていなかったことなどについて考え、発表し、他の人の意見を聞くことができて有意義で濃密な 2 日間を過ごすことができました。企画・運営してくださった実行委員・サポーターの皆さんありがとうございました。
・ご多忙の中の準備ありがとうございました。
・会議の準備、運営お疲れさまでした。
・今回はサポーターとしても運営の方には大変お世話になりました。

○学びがあった（視野が広がった、モチベーションが上がった、刺激を得た　等）　（12 件）

・長い間この２日間のために準備されてきたことと思います。本当にお疲れ様でした。みなさんとお互いに考えを話し合って多くの気づきを得られました。ありがとうございました。【再掲】
・同じ国立大の職員で課題や共通点を認識する事や共有する事が出来て、良かったと思います。またモチベーションの高い参加者が多いので、今後の業務での意識改革ができたのではないかと思います。このような機会を作っていただき、ありがとうございました。【再掲】
・たくさんの人と話をすることができ、勉強になりました。ありがとうございました。【再掲】
・参加費の支払いが遅れ、ご迷惑をおかけしてすみませんでした。初参加で不安でしたが、色々なことを学べて、参加してよかったと思っています・ありがとうございました。【再掲】
・２日間お疲れ様でした。これだけの会議を企画するのは大変な苦労だったと思います。企画員さんや他の方のモチベーション

を分けてもらえました。【再掲】
・新しい視点を知ることができ視野が広がりました。ありがとうございました。パンおいしかったです。【再掲】
・色々な人の話を聞くことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。【再掲】
・視野は確実に広がったし、モチベーションもあがりました。ありがとうございました。【再掲】
・課題や職員としてできることをじっくり考える機会があまりなかったので、いい機会になりました。今後の業務に活かせそうな意見をたくさん聞くことができたので、目標が実現できるようがんばりたいと思いました。ありがとうございました。【再掲】
・初参加でしたが、普段あまり考えられないこと、考えていなかったことなどについて考え、発表し、他の人の意見を聞くことができて有意義で濃密な２日間を過ごすことができました。企画・運営してくださった実行委員・サポーターの皆さんありがとうございました。【再掲】
・初参加でしたが、いろいろな方と話せて刺激を受けました。皆様にならって改善できるよう頑張ってみたいと思います。
・初参加でしたが、採用当初のように脳から煙が出るような状態になりました。

○楽しかった　（４件）
・最高に楽しいメンバーで、最高に楽しいコクダイパンを運営できて楽しかったです。
・とっても楽しかったです。いつのまにかカップケーキが下げられていたのが、ちょっと悲しかったです・・・。
・とても楽しかったです。ただ、もう少し空港等から近い場所で開催を希望します。
・非常に楽しい２日間となりました。ありがとうございました。【再掲】

○人とのつながり　（２件）
・良い意味で「意識が高い」同業の人と交流ができ、とても良い機会でした。学んで終わりにせず、今後の行動に移していきたいと思います。
・多くのつながりを作り、考え方を広げていくとても良い会でした。ありがとうございました。【再掲】

○改善点　（２件）
・ＫＪ法やりすぎ、企画が盛り込み過ぎなので、もっと整理して欲しかった。
・建物内に紙で案内がなかったのは分かりずらかったです。

○実行委員を検討したい　（1 件）
・以前参加させていただいた先輩からのすすめで今回参加させていただきました。会のスムーズな運営状況を見て、実行委員の方の努力が伝わってきました。全国の方がこれだけ集まり語り合う場というのは、なかなかない機会だと思います。運営に興味があると話したところ、委員の方々に是非やろうとのお誘いを受けたので、来年の業務状況を見て前向きに検討したいです。（○○さん、○○さんを引きずり込みたい…）今回は本当にありがとうございました。【再掲】

○その他　（４件）
・記名式アンケートである必要性はありますか？
・とても充実した２日間でした！
・パンおいしかったです。
・そろそろ引退

非常に多くの参加者から、実行委員へのお礼・ねぎらいの言葉がありました。実行委員会として改めて感謝申し上げます。また、得られるものがあったというコメントも多くの参加者からいただきました。参加者にとって、少しでも有意義な会議になるよう準備を進めてきましたので、非常に嬉しく思います。その他にも、コクダイパン会議を通じて、このような全国規模のイベント運営に興味をもち、実行委員を検討したいという意見が出されるなど、参加者に前向きな様々な影響を与えていることを窺い知ることができ、実行委員会としては非常に嬉しいことです。

なお、アンケート項目３－５でのコクダイパン会議の企画・運営スタッフになることに興味があるかという質問に対し、「ぜひやってみたい」は１名（１％）、「興味がある」は 22 名（20%）の回答がありました。本務の傍ら、このような大がかりなイベントの企画・運営に携わることには相当の勇気と覚悟が必要とされる中、これだけの積極的な回答があったことは、この会議自体の今後に向けての新たな一歩であるとともに、国立大学の未来に向けてのポジティブな一歩が踏み出されようとしているのではないでしょうか。

5.　終わりに～謝辞～

第９回コクダイパン会議は、会議運営に多大なるご尽力をいただきました、会場校である一橋大学の皆様、サポーター、事例紹介者、分科会司会役、タイムキーパーなどの皆々様のおかげをもちまして、特段大きなトラブルに見舞われることもなく、無事終了することができました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。また、参加者や実行委員に対し有形無形の支援をしてくださっている各所属機関の皆様、ご家族の方のご理解、ご支援のいずれが欠けても、コクダイパン会議の成功はありませんでした。改めまして、関係する皆様に御礼申し上げます。

ここに、第９回コクダイパン会議の報告書が完成いたしました。今回の会議では、国立大学が抱える課題に対し自分はどのように関わっていくのかについて考え、参加者の皆様に「行動目標（Pan 宣言）」を作成していただきました。各自の Pan 宣言と合わせて本報告書をご覧いただき、日々の取り組みにご活用いただけましたら、実行委員一同幸いです。

参加者のみなさまに回答していただいたアンケートを拝見すると、モチベーションアップに繋がったという方や、いただいたアドバイスを早速実行しますという方、周囲の人にもコクダイパン会議を広めたいという方々がいらっしゃいました。一方で、２日間の限られた時間の中にやりたいことを詰め込んだため、前後のワークの繋がりが悪く考えにくかったという方や、時間が足りなかった方、それまでのワーク内容をうまく Pan 宣言に反映できなかったという方々もいらっしゃいました。実行委員の準備に至らないところもあり、その反省を次回以降に引き継いでいきたいと思います。

発足当初は「決起集会」であったコクダイパン会議は、回数を重ねるごとに次第にその性質や求められているものが変化してきたように感じています。近年では入職後間もない方や初参加の方が多数を占めています。この状況も踏まえつつ、今後コクダイパン会議自体がどのような方向に進んでいくべきかを考える時期に来たのだと思います。

最後になりましたが、皆様の今後益々のご活躍を祈念し、簡単ではありますが謝辞とさせていただきます。来年もまたどこかの国立大学で皆様とお会いできること、そして今回の会議で出会った皆様は所属機関での業務においても繋がりを持ち続けていただけることを願っております。